

3 社会
(1) 正答率

大問	問題番号	配点	通し番号	正答率 (%)	中間点取得率 (%)	学習指導要領の領域				観点		解答方式			正答率	中間点	不正答	
						地理的分野	歴史的分野	古代まで、中世、近世	近代、現代	公民的分野	主として知識・技能をみる	主として思考・判断・表現をみる	多肢選択	記述(短答)				記述(説明)
1	問1	(1)	2	①	54.2	—	○				○			○				
		(2)	2	②	43.5	—	○				○			○				
	問2	(1)	2	③	57.7	—		○		○	○		○					
		(2)	3	④	67.9	—		○	○		○		○					
	問3	(1)	2	⑤	65.8	—				○	○			○				
		(2)	2	⑥	25.2	—				○	○			○				
		(3)	3	⑦	13.2	11.0				○				○				
	問4	(1)	2	⑧	79.7	—	○				○			○				
		(2)	3	⑨	22.1	5.4	○						○		○			
	問5		2	⑩	34.3	—	○				○			○				
	問6	(1)	2	⑪	45.6	—		○	○		○			○	○			
		(2)	2	⑫	54.5	—		○		○	○			○	○			
		(3)	3	⑬	39.8	15.7		○		○				○		○		
	問7	(1)	2	⑭	18.6	—					○	○			○			
(2)		2	⑮	66.0	—					○	○			○				
2	問1		3	⑯	37.0	17.2		○	○				○					
	問2		3	⑰	39.9	—		○	○				○	○				
	問3		4	⑱	47.6	—		○	○				○	○				
	問4		3	⑲	21.7	15.6		○		○			○	○				
	問5		4	⑳	8.2	8.8		○		○			○	○	○			
	問6		5	㉑	4.5	10.2		○		○			○		○			
3【A】	問1		3	㉒	64.0	—	○						○	○				
	問2		4	㉓	22.5	14.6	○						○		○			
	問3		3	㉔	23.2	—	○						○	○				
3【B】	問1		3	㉕	41.5	—	○						○	○				
	問2		4	㉖	17.4	42.2	○						○	○	○			
	問3		5	㉗	1.9	29.1	○						○		○			
4	問1		3	㉘	64.0	—				○			○	○				
	問2		4	㉙	39.8	—				○			○		○			
	問3		4	㉚	42.7	18.2				○			○		○			
	問4		3	㉛	21.7	36.5				○			○	○	○			
	問5		3	㉜	0.9	—				○			○		○			
	問6		5	㉝	24.6	26.8				○			○		○			

観点	主として知識・技能をみる		51.1
	主として思考・判断・表現をみる		28.5
解答方式	多肢選択		38.6
	短答		41.6
	説明		22.8
学習指導要領の領域	地理的分野		36.8
	歴史的分野	古代まで、中世、近世	47.6
		近代、現代	31.1
公民的分野		34.8	

(2) 義務教育段階の傾向や課題





義務教育段階における学力調査等から、北海道の中学生には、文章や図表等に表れている見方や考え方を捉えることや、自分の意見や考えが何に基づいているかを明確に表現することに課題がみられる。

○傾向や課題を踏まえた特徴的な問題 【大問3 A問3】

正答率(23.2%)

問3 資料3は、略地図のイギリスとクロアチアで、EUへの加盟もしくはEUからの離脱を決める国民投票を実施した際の代表的な意見を示したものです。資料3のX国、Y国について説明した文として適当なものをa～fから3つ選んだとき、組み合わせとして正しいものを、ア～クから選びなさい。

資料3

<p>【X国】</p>  <p>私は賛成です。外国からの旅行者が増え、国内の観光業が伸びると思うからです。</p>	<p>私は反対です。独自の文化が失われ、さまざまな制約により国家の主権が失われるからです。</p> 
<p>【Y国】</p>  <p>私は賛成です。開発が遅れている国への補助金の負担が大きすぎると思うからです。</p>	<p>私は反対です。関税が課せられるようになり、貿易や国内企業が衰退するからです。</p> 

- a X国はイギリス、Y国はクロアチアである。
- b X国はクロアチア、Y国はイギリスである。
- c X国の賛成論には、独自の経済政策を実施しやすくなるという意見も多くあった。
- d X国の反対論には、優秀な人材が外国に流出してしまうという意見も多くあった。
- e Y国の賛成論には、国境の管理を厳しくすることができるという意見も多くあった。
- f Y国の反対論には、他国からの労働者が増加してしまうという意見も多くあった。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ア a, c, e | イ a, c, f | ウ a, d, e | エ a, d, f |
| オ b, c, e | カ b, c, f | キ b, d, e | ク b, d, f |

1 出題のねらい

[問題の内容]

資料3に示されたイギリスとクロアチアにおける、EUへの加盟、もしくはEUからの離脱を決める国民投票を実施した際の代表的な意見を読み、文章に表れている見方や考え方を捉え、根拠をもって思考・判断する力をみる問題である。

[解答までのプロセス]

- ① EUに加盟、若しくはEUから離脱した際の当該国への影響を考える。
- ② XY両国の意見を読み、X国は加盟、Y国は離脱に関する意見であると判断する。
- ③ イギリスのEU離脱に関する知識などと照らし合わせて、X国はクロアチア、Y国はイギリスであると判断し、適切な選択肢の組み合わせを選ぶ。

[関連する学習指導要領の領域と内容]

B 世界の様々な地域

1 (2) 世界の諸地域 イ(ア)

世界の各州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

2 解答の状況と分析

この問題の正答率は、23.2%であった。X国・Y国を該当国に判別すること、及び文章に表れている見方や考え方を捉えることに、それぞれ課題があったと考えられる。

(3) 今後の授業の在り方

○ 授業実践例

地理的分野 【中学校 第1学年 社会】

「世界の様々な地域」

～各州の地域的特色やそこで見られる地球的課題にはどのようなことがあるだろうか～

指導事項

大項目 A 中項目 (2) 世界の諸地域：小単元 2 「ヨーロッパ州」

イ(ア) 地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

言語活動

・ 諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめ、それらを基に意見を出し合う活動

学習過程

〔主な学習活動〕

〔指導上の留意点〕

第一次

課題把握

【ヨーロッパ州の特色】

本時の問い「ヨーロッパの自然環境や人口、経済などにはどのような特色が見られるだろうか」

① 本時の問いについて、1人1台端末でスライドを作成する。

② 個々のスライドを学級全体で共有する活動を通して、ヨーロッパの地理的特色を捉える。

課題追究

■ キッズ外務省(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/index.html>)などを提示し、生徒がスライド作成の参考とできるよう工夫する。

■ 細かな知識ではなく、ヨーロッパ州を大観するスライドとなるよう促す。



第二次

課題把握

【EU統合の影響】

本時の問い「EU統合による成果と課題には、どのようなものがあるだろうか」

③ 本時の問いについて、諸資料からまとめた情報をワークシートに記入する。

④ 農業や工業の国境を越えた結び付きにも着目し、社会的な見方・考え方を働かせながら思考し、ワークシートにまとめる。

課題追究

■ 諸資料からまとめた情報をワークシートに記入させる際、単に情報のみを記入させるのではなく、例えば「EU統合で人々の生活がどのように便利になったか、説明してみよう」などのように、情報をまとめさせるよう工夫する。

■ 位置や空間的な広がりに着目させ、さらに他地域との結び付きを踏まえて思考させる。

第三次

課題把握

【EUの課題】

本時の問い「EUの構成国内で、なぜ離脱や独立などの動きが見られるのか」

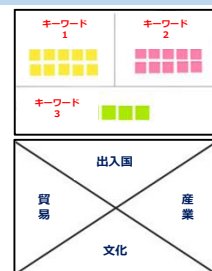
⑤ 本時の問いについて、デジタルホワイトボードを活用し、4人グループで考えを出し合う。

⑥ 各グループのデジタルホワイトボードを学級全体で共有し、さらに全体で意見を出し合うことで、新たな問いや新たな学びにつなげる。

課題追究

■ 生徒の考えをデジタルホワイトボードへ入力させ、それらをキーワードでまとめさせる。

■ 学級全体で共有する際には思考ツールを用いて、教員が班ごとのキーワードを右の図のように分類する。



○ 授業づくりのポイント

この単元では、ヨーロッパ州について、諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめたり、それらを基に意見を出したりする活動を設定した。このように、生徒が、様々な社会的事象の関連や本質、意義を捉えて考えたり、現代社会の諸課題の解決に向けて構想したりする際、社会的な見方・考え方を働かせることによって、地域の特色や地域相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題の解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりすることができるよう、授業を進める。

(4) 高等学校における指導の在り方

高等学校では、地理歴史科において、社会との関わりを意識して課題を追究する活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度などを養うことが求められる。また、特に必修科目である「地理総合」においては、①持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察すること、②グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察することと、③地図や地理情報システム(GIS)などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得することが求められる。